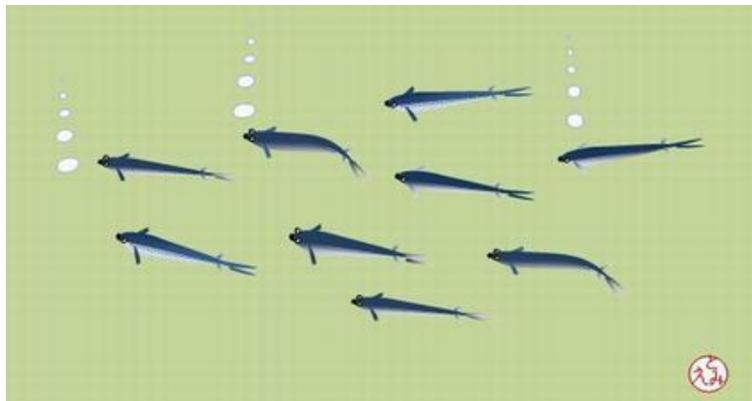
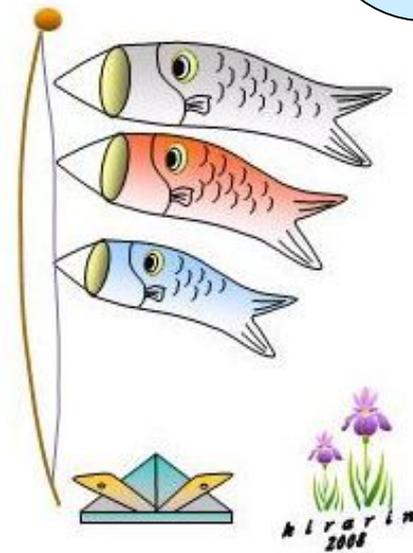


# 足利風 -ashikaga-fū

2010  
5月号  
Vol. 7



## 足利市民活動センター

開館時間：平日 午前10時～午後7時

〒326-0051

栃木県足利市大橋町1丁目2006-3

TEL 0284(44)7311

FAX 0284(44)7312

mail info@shimin-act.jp

HP <http://www.shimin-act.jp>

☆ ご案内 ☆

- \*特集！
- \*TOPICS
- \*私のボランティアことはじめ
- \*サークル紹介
- \*インフォメーション
- \*センターからのご案内

## \* NPOマネジメントと資金調達 \*

「日本でもNPO(民間非営利組織)が続々と生まれている。だが、まだ大きな成果を生み出していない。それは、企業のマネジメントとは異なるボランティア・マネジメントのツボを押さえていないからだ」とは、NPOの良き理解者であり、経営の神様といわれたP. ドラッカーの言葉だ。ドラッカーが良く引用する逸話がある～レンガを積んでいる人の一人に「何をしているのか」と尋ねたところ、最初の間は「レンガを積んでいる」と答えた。二人目は「壁を作っている」と答えた。三人目は「寺院を作っている」と答えた、という話。マネジメントをする立場の人は、すべての関係者が各人の果たすべき仕事の位置づけを、第三の人のように十分心得ていて、問題なく働けるようにするのが、その責務なのである～

NPOが企業や行政と異なるのは、資金源である。NPOは資金源開拓のための戦略を必要とする。資金源開拓とは、NPOの使命が支持するに値するがゆえに資金を拠出するという支持者を獲得する行為である。その中でも、助成金獲得は魅力あるものの一つである。米国の助成財団の経験豊富な知人は、優れた助成申請書には共通の特徴がある、と語ってくれた。お役に立てば幸いだ。

\* アイデアが斬新である \* 助成申請者は専門性を備えているが、同時に自分の弱点を十分に承知している \* 準備や下調べが万全である \* 事業の受益者に対して、ワンウェイではなく協働する態勢がある \* 利他の精神が優先し、自己中心的ではない \* いささかなりとも自己の資金を投入する心構えがある \* 壁が高くてもその事業を何が何でもやる意思がある・・・などなど。

(M生)



## \* ～子ども達の心を耕す風となれ～ \*

文化体験プロジェクト「夢のつばさ」の呼び掛けにより、行政と民間(足利在住の教員・元教員・学童保育指導員・芸術家など)が協働の事業として、足利子ども文化支援プロジェクトの活動を行いました。

この事業は、文化庁の支援事業として、高校生の部活動を対象にして行った「実践研究」(22回)と、小学児童を対象に行った「体験プログラム」(152回)を併行して行いました。両講座での受講者は延べ人数で5600名近くになります。

この事業を指導した講師は延べ人数で550名になります。

実施した講座は工作、ダンス、民族舞踊、手話合唱、ハンドベル、表現朗読と幅広い内容になりました。地域の人材を活用しての事業という位置づけを振り返って見つめてみると、とても大きな成果があった事業だったと言えるでしょう。

この時代の厳しさは、大人だけではなく小さな子ども達の心にも襲い掛かっています。子どもたちは、大人が作り出したバーチャルな世界の中において、自分の心の叫びにも気づかず過ごしてられる世の中です。「僕はやれない・・・勇気が出ない・・・」それでも勇気を持って一歩踏み出した子ども達に、私たち大人はしっかり学ばなければいけないと思っています。

足利子ども文化支援プロジェクト 講師 ながの瞬

## \* みんなが笑顔で手をつなぐ「つどい」 \*

### ～吉間巧子～



私は、長い間保育所に勤務し、3年程前に定年を迎えました。現役の頃から退職後は、自分が生まれ、育ち、今も住んでいる地元で何か役に立つことが出来ないかなと考えておりました。それは、自分の好きな分野で、余り無理なく実現でき、人に喜んでもらえる事です。そう思うと、地元の人に人が気軽に集える場が欲しいと強く感じる様になりました。

何と、願えば叶うという言葉どおり退職と同時に一戸建ての家が見つかりました。さっそく事業開始です。名称をサポートハウス「つどい」とし手探り状態から始め、大勢の方からアドバイスやお力添えを頂きながら現在に至っております。今では、子育て中の親子や、お年寄りの方が楽しみに来てくれる場所にもなりました。子育て交流では、親子で手遊びやゲームをし、子ども達の大好きなエプロンシアターや紙芝居も行っています。お年寄りが集う地域交流では、歌をうたったり、折紙をしたり、指編みをしたり、体操をしたりしています。「つどい」は、何時も笑い声で一杯です。私も、皆さんから沢山のパワーを頂き一緒に楽しんでいます。

又、子育て支援として一時保育や子育て相談も行っています。お陰様で孫が沢山出来ました。どの子も可愛くて、一人ひとりの個性や長所が良くわかります。子どもは大人が思っているより遥かに感受性が強く、言葉の意味を理解しています。良い所を沢山伸ばしてあげたいですね。これからも、行政が手の届かない部分で、何でも気軽に話し合えるおばさんとして地域の人たちと一緒に子ども達の健やかな成長を見守りたいと思います。一人では微力でも、みんなの力を合わせると強くなります。住んでいる人達みんなが手をつなぎ、助け合い、笑顔一杯の輪を広げていきたいものです。

## \* 財団法人アンタレス山浦国際交流基金 \*

### 鈴木光尚

財団法人アンタレス山浦国際交流基金は、初代理事長・山浦啓栄氏の“精神のダンディズム”と“パブリック”という二つの高い志と、地域文化高揚の目的のもと、1989年に創設された。地方都市には稀有な文化の香り高い財団法人である。その後、1991年には、世界的にみても貴重な文化遺産である、中国曲阜孔子廟の名碑をはじめとする拓本三千点余りを所蔵する「華雨蔵珍之館」を建設した。

財団二十周年記念誌の発行も予定されているが、拓本研究費助成・拓本の公開及び普及啓発事業・栃木県日仏青少年研修事業助成・日本パキスタン国際交流助成や青少年教育への支援等々、地道で多彩な活動を続けてきている。

財団の基本財産は、その時代時代の金利・利率により、果実の多寡が左右されるが、関係者一同の知恵を寄せ合いながら、地域文化発展のための助成等々を間断なく行っている。公益法人改革にも対処すべく、前向きに検討中である。

## ① インフォメーション ①

### ☆ ボランティアNPO茶論

いま、変革の時代の風の中で、ひとり一人の生きる姿勢が問われています。その中で、自立と共生へのさまざまな試みが、地域に根ざした市民の手で始まっています。多様性をはらんだボランティアNPO活動の輪も広がり深さを増しています。地域の課題に焦点をあて、協働による課題解決をめざして、共に学び・語り合う「ボランティアNPO茶論」を、素敵なゲストをお迎えして開催します。みなさんお誘いあわせのうえ、お気軽にご参加ください。

日 時：平成 22年 5月 29日(土) 午後 1時 30分 ~ 3時 30分  
会 場：足利市民活動センター  
内 容：テーマ「自然くらしのデザイン」 講師 大内正伸(イラストレーター・作家)  
参加費：無料  
定 員：30名(先着順)  
問合・申込：足利市民活動センター (TEL:44-7311)

### ☆ みんなのしゃべり場～次回開催のお知らせ～

今回のしゃべり場は、4月3日(土) 足利市民活動センターの庭にて行われました。好天に恵まれ車イス体験や朗読をたくさんの方々に楽しんでいただきました。桜の花もちょうど満開できれいでした。次回は、8月5日(木) PM7時～9時を予定しています。内容については、乞うご期待！ たくさんの方の参加をお待ちしています。

## \* センターからのご案内 \*

### ☆ みんなの広場 ～ 5月・6月のご案内 ～

- \* 折り紙展(5月10日～20日)
- \* ルンビニー園 園生たちの絵画展(5月24日～6月3日)
- \* ペーパークラフト・切り絵・手工芸展(6月7日～17日)
- \* 遊印展(6月21日～7月1日)

### ☆ 相談室&講座のご案内

- \* 相談室 = 毎月第2・第4水曜 午後2時～4時  
※詳しくは、別紙参照
- \* 講座 = 毎月1回 午後7時～9時  
※詳しくは、別紙参照

☆ 今回から表紙のイラストを「ぱそぼらシニアネットあしかが」のみなさんにお願ひしました。



### 【 編集後記 】

天気の良い日には足利めぐりをしたいなあ！(コッペ)  
こいのぼりになって空から広い世界をみたいなあ～(ボンクラ)  
仕事が忙しい・・・(><) たまにはゆっくり過ごしたいな(^^)v (アイリ)